

腎臓を狙って薬物送達 京都薬大が新技術開発

京都薬科大学薬
剤学分野
の勝見英
正准教
授、山本
昌教授ら
の研究
グループ
は、腎臓
に治療薬
や診断薬
をピンポ
イントで
送達でき
るナノ薬物担体を開発した。

京都薬科大学薬剤学分野の勝見英正准教授、山本昌教授らの研究グループは、腎臓に治療薬や診断薬をピンポイントで送達することによって、慢性腎不全や腎細胞がんの発症部位である近位尿管に集積することも分かった。抗がん剤などの治療薬や診断薬をナノ薬物担体に搭載し、ピンポイントで送達することによって、慢性腎不全や腎細胞がんの治療や画像診断に役立てられると期待している。

今後、新たな薬物送達技術として製薬会社との共同開発を実施したい考えだ。

研究成果は、このほど「米国科学アカデミー紀要」のオンライン速報版に掲載された。

アミノ酸の一種であるセリンをナノ薬物担体の表面に結合させることで、薬物担体が腎臓のみに集積する